

令和4年度 子どもに対するしつけと体罰に関するアンケート 実施報告

1 目的

令和元年「児童虐待の防止等に関する法律」が改正され、親権者による体罰の禁止が明文化されたことと、「横浜市子供を虐待から守る条例」の改正に伴い、横浜市民にしつけと体罰のアンケートを行い、令和2年度の調査と経年比較を行うとともに、体罰のない子育てを推進する。

2 実施時期

令和4年10月21日（金）～12月16日（金）

3 対象

横浜市民

4 方法

QRコードから電子申請システムのアンケートフォームにアクセスし、性別、年齢及び以下の質問に回答。

質問1 しつけのために、子どもに体罰を行うことに対してどのように考えますか。

質問2 子どもを次の選択項目のように「たたく」ことについて、しつけのために、必要だと思うものはどれですか。

質問3 なぜ、しつけのために、子どもをたたく必要があると思いますか。

質問4 注意しても言うことを聞かない子どもに対して、しつけのために、必要だと思う行為は、次のうちどれですか。

質問5 育児をしているなかで、子どもをたたいたことがありますか。

質問6 体罰が子どもに与える影響について、次の中で知っていることはありますか。

質問7 「体罰の禁止」が法律に定められたことを知っていますか。

質問8 横浜市が配信している児童虐待防止に関する広報動画をご覧になったことがありますか。

質問9 動画をどこでご覧になりましたか。

質問10 動画をご覧になった方はぜひ感想をお聞かせください。

質問11 横浜市の児童虐待防止施策へのご意見等ございましたらお聞かせください。

5 周知

- (1) 10月23日（日）「第14回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2022」のゴール会場ブースでチラシ配布
- (2) 10月26日（水）神奈川新聞「横浜市民の広場」に掲載
- (3) 10月27日（木）横浜市HPに掲載
- (4) 11月2日（水）横浜市公式LINE/Twitterにて配信
- (5) 11月11日（金）12日（土）B3リーグ所属プロバスケットボールチーム「横浜エクセレンス」の試合観戦者にチラシ配布

6 集計結果と分析

回答者は1,324人で、男性371人、女性939人だった。年齢別では30歳代から50歳代が多く、30歳代290人、40歳代373人、50歳代381人だった。

令和2年度の調査結果（令和2年度第3回ヨコハマeアンケート 回答者1,262人）と比較すると、**体罰を容認しない割合**（質問1に「決してすべきではない」と回答した人の割合）は**12.9ポイント増加**（49.6%から62.5%）した。

質問2の「しつけのために必要だと思うもの」については、「**いずれも必要ではない**」の割合が約**25ポイント上昇**（42.2%から67.1%）し、「**お尻を叩く**」が約**24ポイント減少**（42.8%から19.0%）した。

質問3の「しつけのために、子どもをたたく理由」について、「**その場で問題行動をすぐにやめさせるため**」や「**口で言うだけでは子どもが理解しないから**」子どもを叩く必要があると回答している人の割合は、**令和2年度同様、他の項目に比べ高くなっている**。

質問6の体罰が子どもに与える影響についての知識では、前回同様いずれの項目も6割から8割の回答者が知っていると答えている。中でも「**自己肯定感の低下**」の割合が約**10ポイント増加**（70.7%から80.6%）した。

(1) 回答者集計

回答者：1,324人

年代別・性別の回答者数／回答率

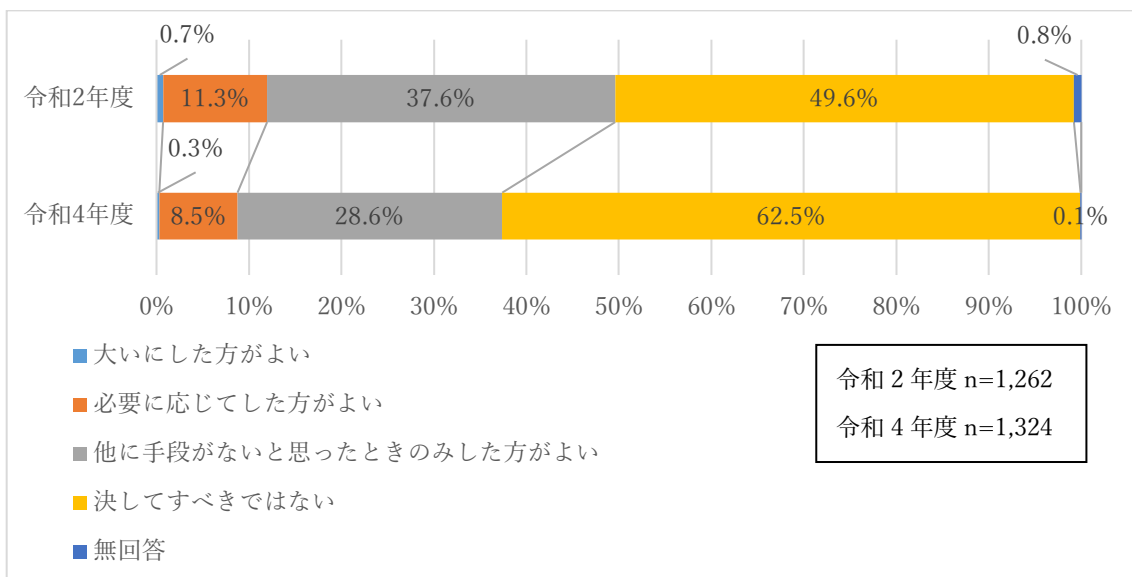
| | 10歳以下 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 | 不明 | 計 |
|-----|-------------|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|-------------------|
| 男性 | 3 (0.8%) | 28 (7.5%) | 85 (22.9%) | 83 (22.4%) | 100 (27.0%) | 51 (13.7%) | 21 (5.7%) | 0 (0.0%) | 371 (100.0%) |
| 女性 | 0 (0.0%) | 64 (6.8%) | 204 (21.7%) | 285 (30.4%) | 279 (29.7%) | 87 (9.3%) | 20 (2.1%) | 0 (0.0%) | 939 (100.0%) |
| その他 | 1 (7.1%) | 2 (14.3%) | 1 (7.1%) | 5 (35.7%) | 2 (14.3%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 3 (21.4%) | 14 (100.0%) |
| 計 | 4 (0.3%) | 94 (7.1%) | 290 (21.9%) | 373 (28.2%) | 381 (28.8%) | 138 (10.4%) | 41 (3.1%) | 3 (0.2%) | 1,324 (100.0%) |

(2) 各質問の調査結果

各質問への回答について、質問1から7について、令和2年度調査との比較を行った。

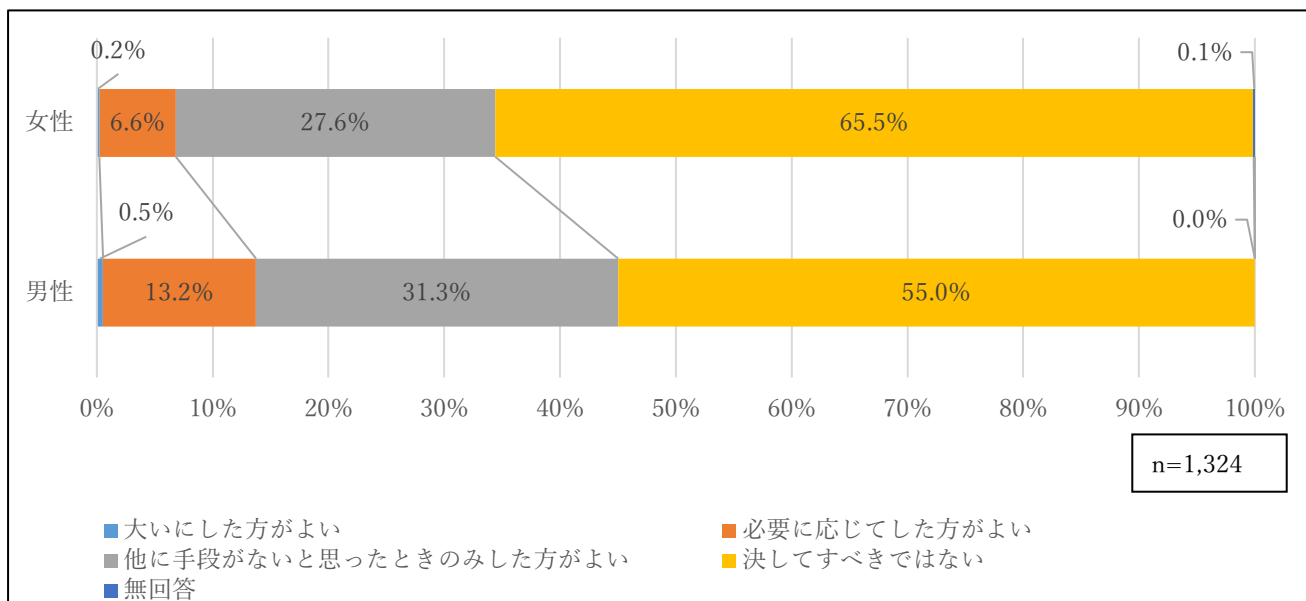
質問1については、令和4年度の調査結果について、性別と年代別の比較も行った。

質問1 しつけのために、子どもに体罰を行うことに対してどのように考えますか。（単一選択）



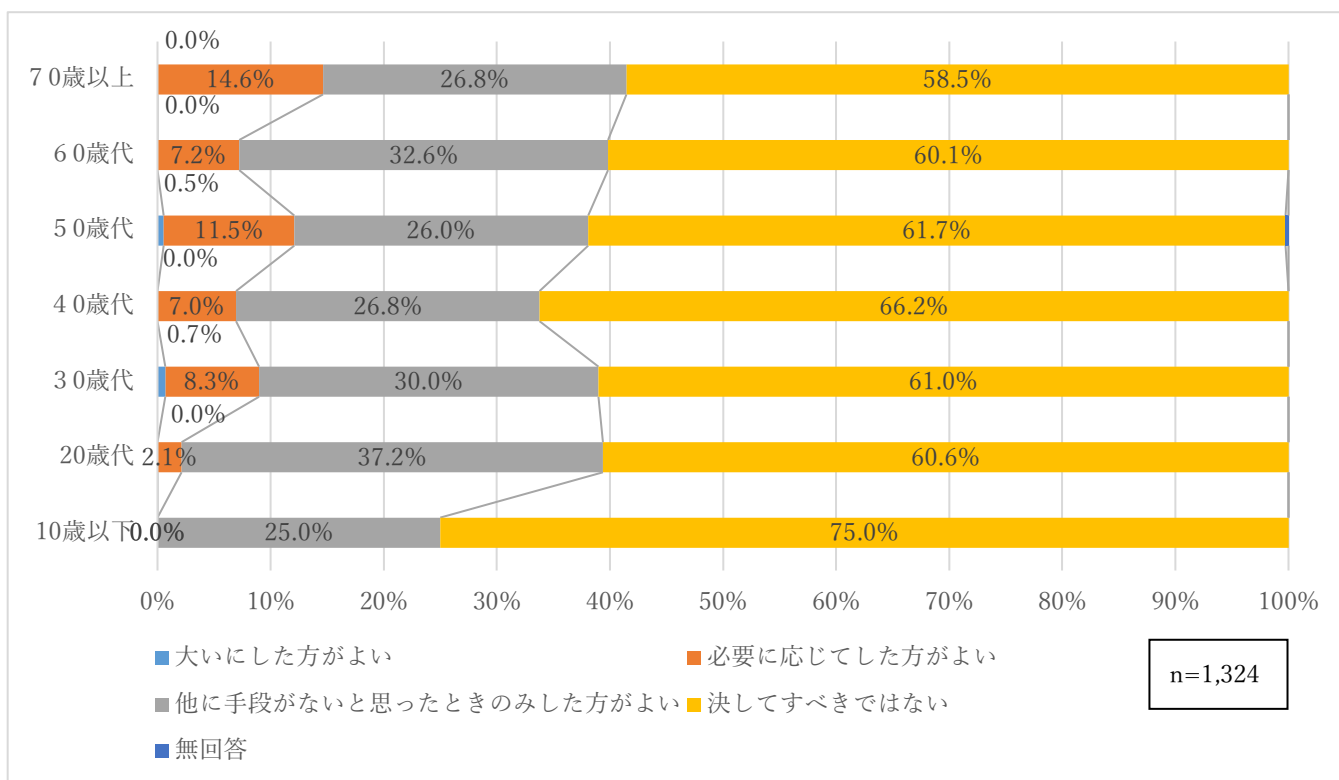
令和2年度に比べ、令和4年度では「決してすべきではない」の割合が12.9ポイント上昇している。

性別と体罰容認の関係（令和4年度調査）



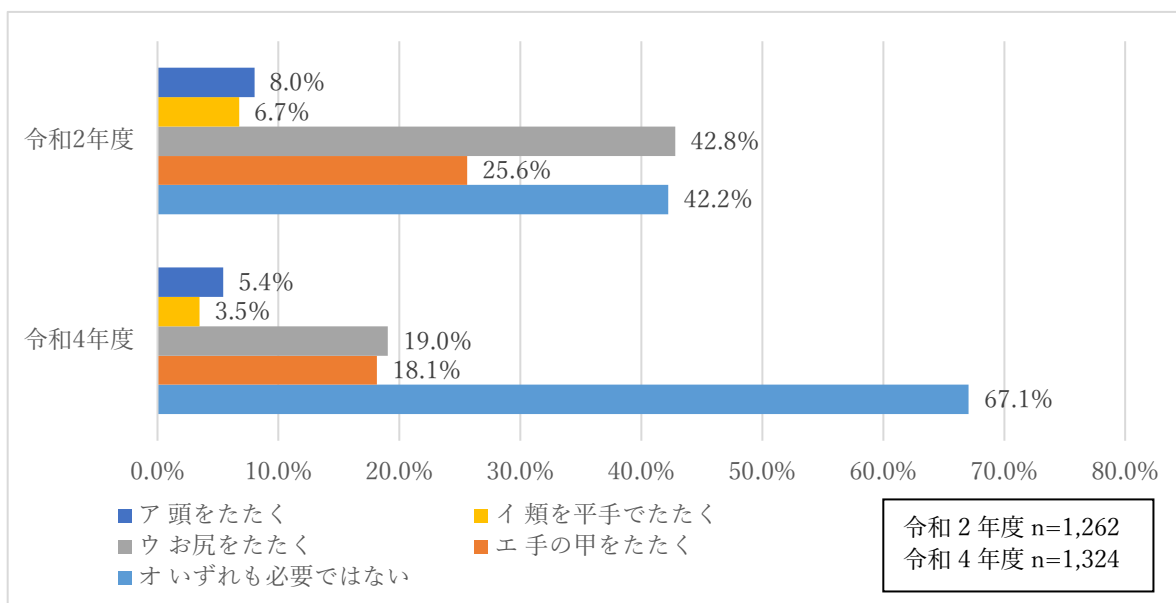
「決してすべきでない」の割合は女性の方が10ポイント高い。

年代と体罰容認の関係（令和4年度調査）



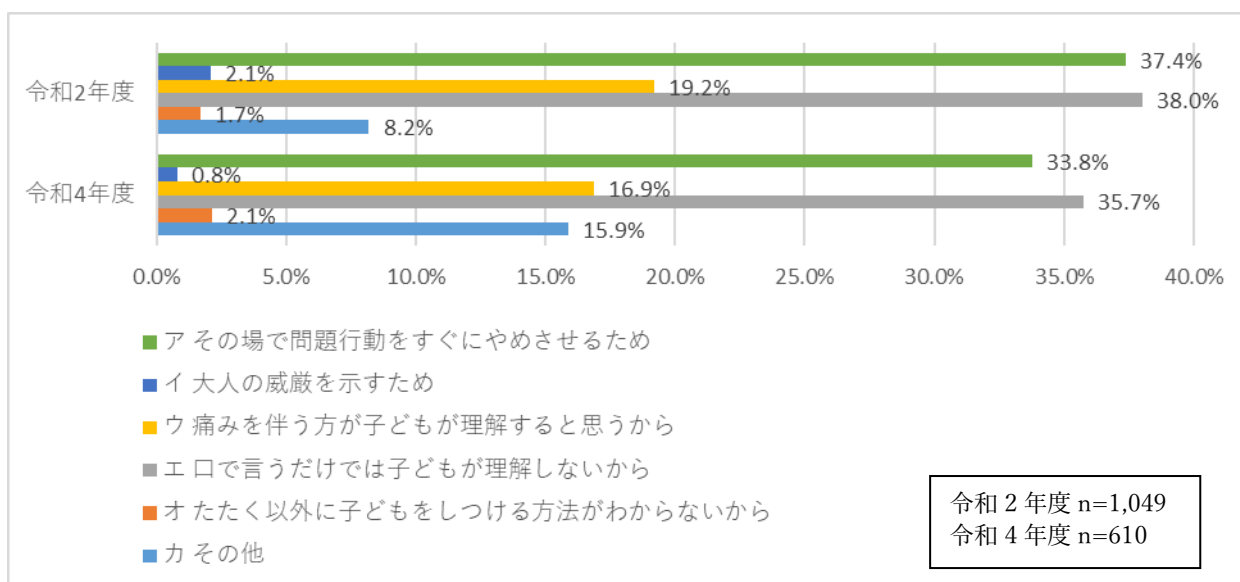
年代により母数は違うが、各年代とも「決してすべきではない」が6割程度かそれ以上になっている。

質問2 子どもを次の選択項目のように「たたく」ことについて、しつけのために、必要だと思うものはどれですか。(複数選択可)



令和2年度と比較すると、令和4年度では「いずれも必要ではない」の割合が約25ポイント上昇し、「お尻を叩く」が約24ポイント減少している。

質問3 質問2でア～エと回答した方にお聞きします。なぜ、しつけのために、子どもをたたく必要があると思いますか。(複数選択可)

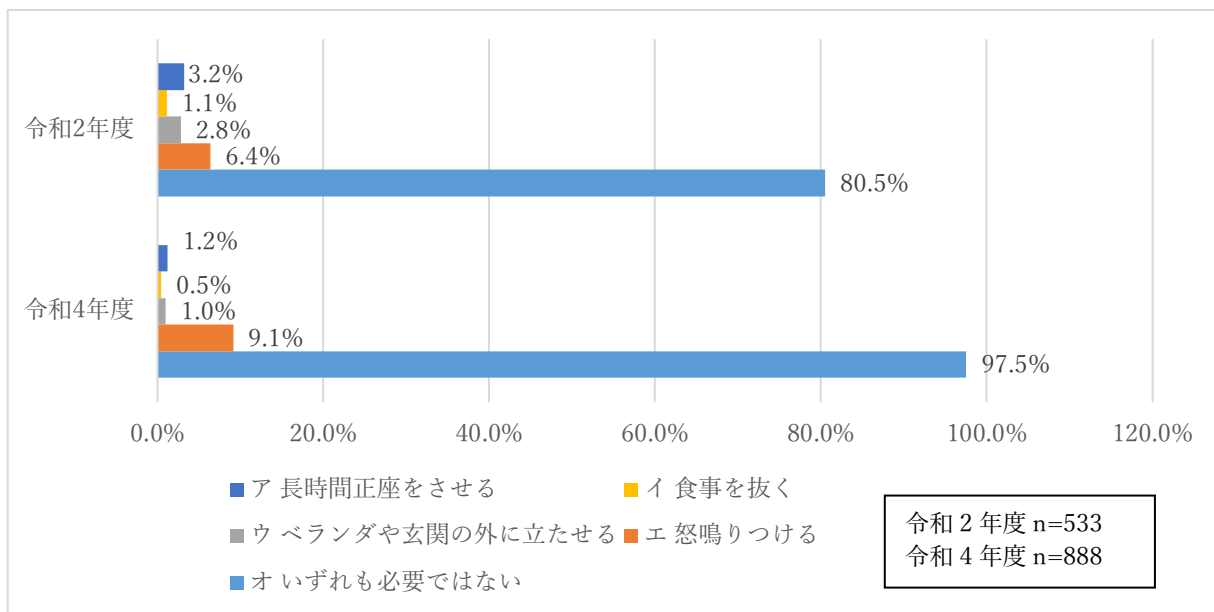


令和2年度と比較すると、母数は1,049人から610人に減少しているが、「その場で問題行動をすぐにやめさせるため」や「口で言うだけでは子どもが理解しないから」子どもを叩く必要があると回答している人の割合は、令和2年度同様、他の項目と比べて高くなっている。

<その他自由記載(抜粋)>

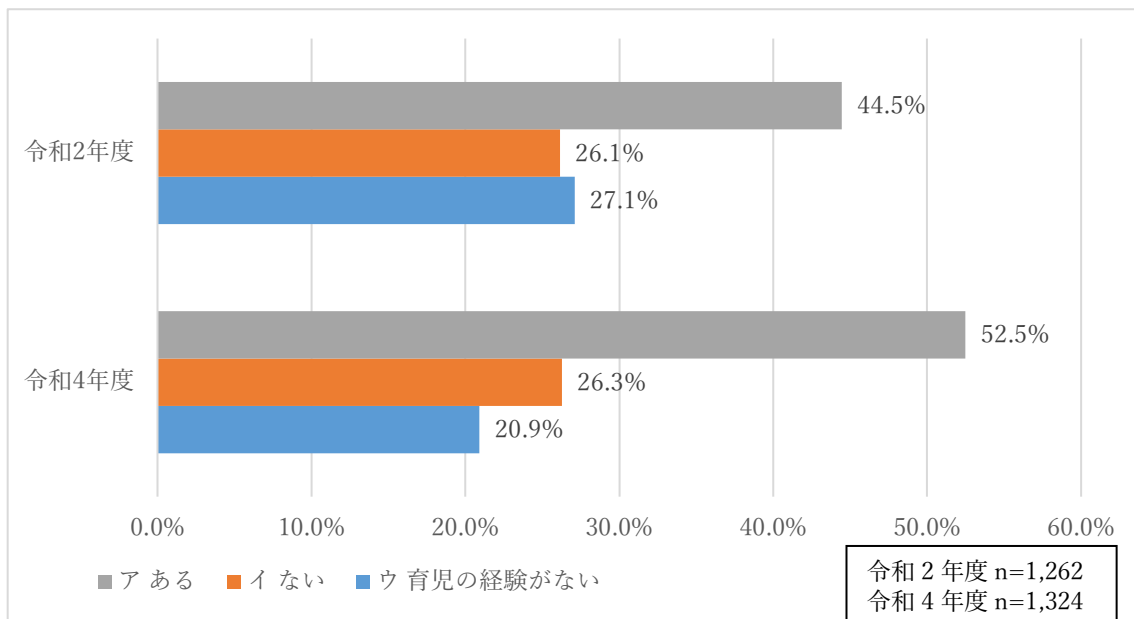
- ・危険が及ぶ時には言葉だけでは理解できません。
- ・叩かなくても子供にしつけはできる。
- ・最初は口頭で、叱る。それでも効果が見られない時には、体罰でも良いと思う
- ・自分がそういう育てられ方をしたから、それ以外の方法を知らない。

質問4 質問2でオと回答したした方にお聞きします。注意しても言うことを聞かない子どもに対して、しつけのために、必要だと思う行為は、次のうちどれですか。(複数選択可)



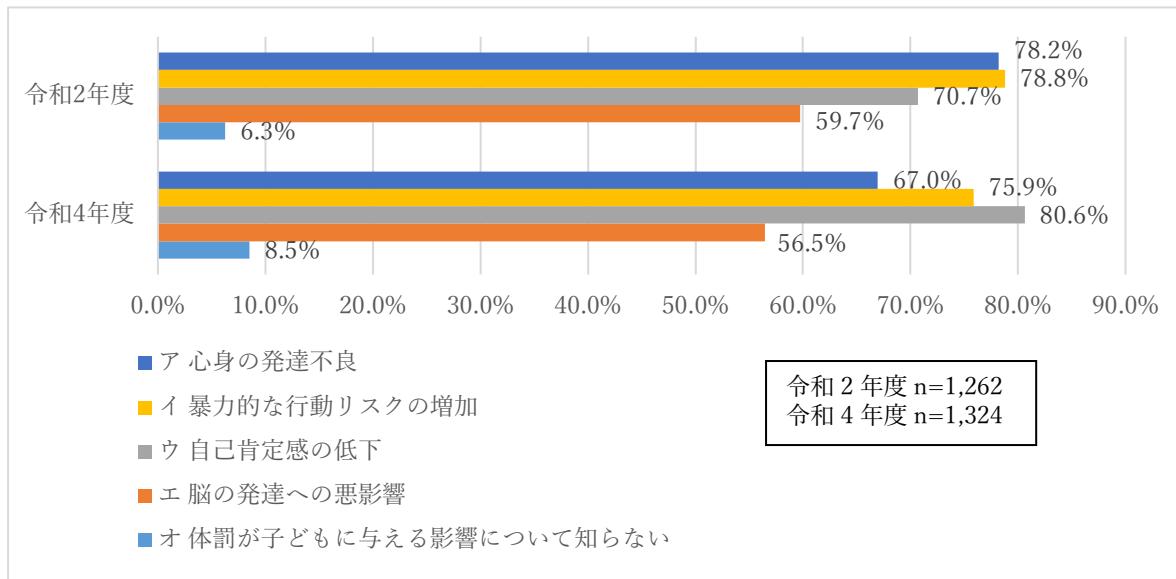
令和2年度と比較すると、令和4年度では、ほぼすべての項目が減少し、たたく以外の体罰等について、「いずれも必要ではない」と回答した人がほとんどであった。

質問5 育児をしているなかで、子どもをたたいたことがありますか。(単一選択)



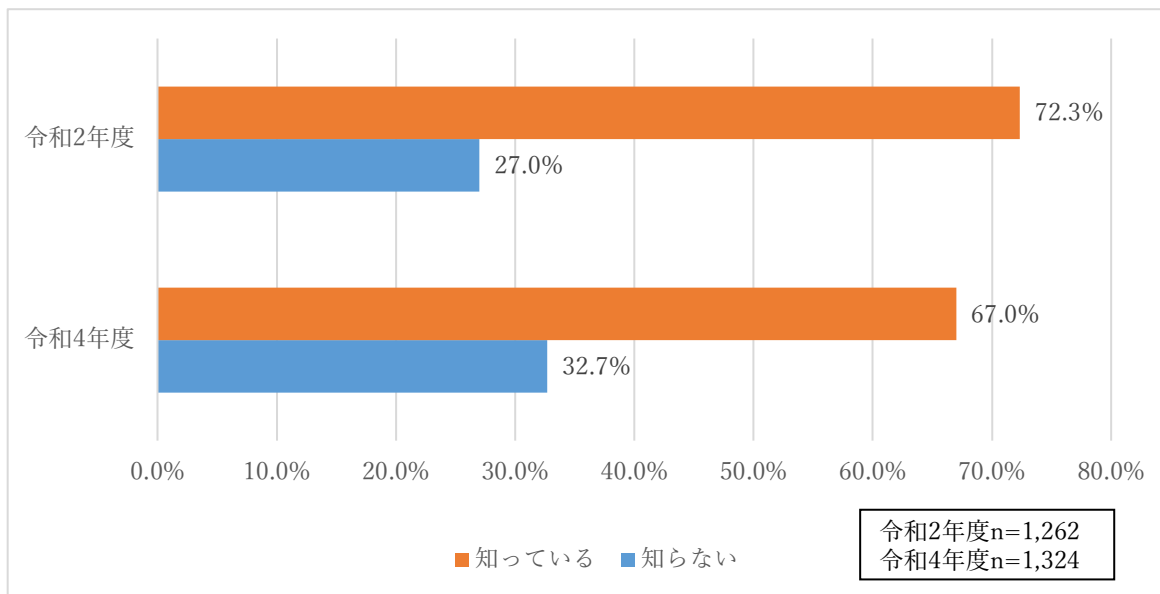
令和2年度と比較すると、令和4年度ではたたいたことがある割合が8ポイント増加している。

質問6 体罰が子どもに与える影響について、次の中で知っていることはありますか。(複数選択可)



令和2年度と比較すると、いずれの項目も6割から8割の回答者が知っていると答えている。中でも「自己肯定感の低下」の割合が約10ポイント増加(70.7%から80.6%)した。

質問7 「体罰の禁止」が法律に定められたことを知っていますか。(単一選択)



令和2年度と比較すると、令和4年度では「知っている」の割合がやや減少し、「知らない」の割合は増加している。(令和2年度は「知っている」「知らない」の選択肢としたため、比較するため令和4年度は「良く知っている」と「知っている」の合計を「知っている」に、「あまり知らない」と「全く知らない」の合計を「知らない」とした。)

※令和4年度結果

| | | | |
|---|---------|-------|-----|
| ア | 良く知っている | 20.5% | 271 |
| イ | 知っている | 46.5% | 616 |
| ウ | あまり知らない | 24.8% | 329 |
| エ | 全く知らない | 7.9% | 105 |
| オ | 無回答 | 0.2% | 3 |

